

#4 一人の新しい人のために、キリストを私たちの

パースンとする (2019.10.ITERO) 2019/12/2-8

I. 新しい人のために、私たちはみなキリストを私たちのパースンとする必要があります:

エペソ3:16 どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してくださいますように。

A. 一人の新しい人の中にはただ一つのパースン、すなわち、キリストだけがおられます。

B. 私たちが見る必要があるのは、召会が一人の新しい人であるということと、この新しい人の中には、私たちには余地はないということです。なぜなら、キリストがすべてであるからです。

C. キリストは一人のパースンとして、私たちすべての中におられます。ですから、私たちはみな、ただ一つのパースンを持っています。

D. 新しい人の中で、私たちはみな一人の人です。あらゆる人がただ一人の人であるという要求は、極めて高いのです:

E. 新しい人は肢体についてではなく、パースンについてです(The new man is not about members but about the person)。ですから、私たちはみな次のように尋ねる必要があります、「だれが私のパースンでしょうか? 私でしょうか、それとも主イエスでしょうか?」。

F. 神が顧慮するのは、私たちがキリストによって生きているかどうか、またキリストを私たちのパースンとしているかどうかです:**ヨハネ6:57** 私を食べる者も、私のゆえに生きる。

1. 私たちはキリストの豊富を食べ、それを取り入れ、それを私たちの存在の中へと吸収するだけであってはなりません。私たちはまたキリストに私たちのパースンとなっていただくべきです。**2.** 私たちはキリストを私たちの命とするだけでなく、私たちのパースンともすべきです。 **目**

II. 一人の新しい人の実際的な出現のために、古い人のパースン全体は除き去られなければなりません。また、私たちは新しいパースンによって生きなければなりません:

ローマ6:6 私たちは次のことを知っています。私たちの古い人が彼と共に十字架につけられた...

A. 私たちは、私たちの以前のパースンが十字架につけられたことを認識しているのですから、もはやそのパースンの中で、そのパースンによって、そのパースンと共に生きべきではありません。

B. 私たちは、私たちの以前のパースン、すなわち「古い人」と「外なる人」を否まなければならず、また私たちの新しいパースン、すなわち「内なる人」によって生きなければなりません。**IIコリント4:16** こういうわけで、私たちは落胆しません。それどころか、私たちの外なる人が朽ちていても、私たちの内なる人は、日ごとに新しくされていきます。

C. クリスマンとしての私たちの標準は、正しいか間違っているか、善か悪かであるべきではなく、パースンであるべきです。極めて重要な事は、私たちが「何を」行なっているかではなく、「だれが」それを行なっているかです。

D. 私たちは外側の振る舞いを調整することを顧慮すべきではなく、古いパースンから新しいパースンへの内側の転換を顧慮すべきです。 **火**

III. 私たちがキリストを私たちのパースンとすることによって、特に決定をする時に彼をパースンとすることによって生活するなら、私たちの生活は、新しい人の生活となります:

エペソ4:24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。

A. からだは行動するためですが、新しい人は生活するためです。そして、私たちの生活の八十から九十パーセント

は、決定をすることにあります。

B. 新しい人の中で、私たちはキリストを私たちのパースンとし、計画を立て、私たちがどのように生活すべきかを決定します。

C. 私たちは、キリストを私たちのパースンとすることによって、また私たちの中ですべての決定をする方としての彼をもって、新しい人の中で生活する必要があります。

D. 私たちは、キリストを私たちのパースンとするなら、私たちの生活におけるいかなることも自分一人で決めないでしょう:**ピレモン14** しかし、あなたの同意なしに、私は何もしたくありません。それは、あなたの善が強いられたものではなく、自発的なものとなるためです。

1. いったん私たちが一人の新しい人の一部分であることを見るなら、自分一人で事を決定することはできなくなります。**2.** 私たちは新しい人の一部分であるので、私たちの決定と私たちの生活は、私たちのものであってはならず、団体の新しい人の決定と生活であるべきです。これが究極の要求です。

3. 新しい人の生活は、団体の生活です。ですから、私たちの決定は、団体の決定であって、個人の決定ではありません。**4.** 私たちが見る必要があるのは、私たちが団体のからだだと団体の新しい人であるということと、私たちの生活と行動のいずれも団体的であるということです。 **水**

IV. パウロは、一人の新しい人のためにキリストを私たちのパースンとすることの模範です:

A. 「神が、喜んで御子を私の中に啓示し」(ガラテヤ1:15b-16a): **1.** 神の御子の生けるパースンを明らかにすること以上に、神を喜ばせることはありません。

2. 私たちは、神の御子の啓示に満ちていて、こうして新創造となって、キリストが私たちの中で生きているという状態へともたらされる必要があります。

B. 「私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです」(ガラテヤ2:20a): **1.** パウロは、キリストの命が彼の中に生きていると言ったのではなく、パースンであるキリストが彼の中に生きていると言いました。**2.** 神のエコミーとは、「私」がキリストの死の中で十字架につけられ、キリストが彼の復活において私の中で生きることです。

C. 「私の子供たちよ、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、私はあなたがたのために、再び産みの苦しみをしています」(ガラテヤ4:19):

1. キリストが私たちの内に形づくられることは、キリストが私たちの中で完全に成長することです。

2. キリストは私たちの中へと生まれました。今や、彼は私たちの中に生きています。私たちが円熟するとき、彼は私たちの内に形づくられます。 **木**

D. 「キリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができるよう」(エペソ3:17a): **エペソ3:14-17** こういうわけで、私は御父に向かってひざをかがめて祈ります。この方から、天と地にあるすべての家族は名づけられています。どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してくださいますように。またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができるよう。またあなたがたが、愛の中に根ざし土台づけられ。

1. 父なる神は、ご自身の権威を霊なる神を通して行使し、私たちが内なる人の中へと増強しています。それによって子なる神は、私たちの心の中に深くご自身のホームを造ることが出来ます。

2. もし私たちがキリストに私たちの内側ですべての地位を得ていただき、もし私たちが彼に何であれ私たちの中で行ないたいことを行なうていただく完全な自由を与えるなら、私たちの心は彼のホームとなります。

E. 「私が、あなたがた一同をキリスト・イエスの心の深みの中で、どんなに恋い慕っているか、神が私の証人です」(ピリピ1:8): **1.** パウロは、彼の天然の内なる存在の中で生活しませんでした。彼はキリストの心の深みの中で生活し、キリストの心の深みの中でキリストを経験し、キリストの心の深みの中でキリストと一でした。 **2.** パウロは自分自身の心の深みを保ちませんでした、キリストの心の深みを、自分のものとしました。パウロの内なる存在は、キリストの心の深みをもって再構成されていました。

F. 「キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい」(ピリピ2:5):

1. キリストの思いを私たちの内側でも思いとすることは、私たちの天然の思いを否み、キリストの思いを受け入れることによって、キリストを私たちのパーソンとすることです。 **2.** 私たちはキリストを私たちのパーソンとしようとするなら、進んで私たちの思いを否み、キリストの思いによって私たちの思いを置き換えなければなりません。

G. 「なぜなら、もし私が何かを赦したとしたら、私の赦したことは、あなたがたのためにキリストの御前で赦したからです」(Ⅱコリント2:10b): **1.** パウロは、キリストとの最も近く最も親密な接触の中で生活し、キリストの目の表示にしたがって行動しました。 **2.** パウロはキリストと一であり、キリストに満ちており、キリストで浸透されていた人でした。彼は天然の命が砕かれ、さらには終結させられており、意志が柔らかく柔軟であり、感情が熱烈であるが制限されており、思いが思慮深く冷静であり、聖徒たちに対して霊が純粋で真実であり、彼らに益を得させました。

H. 「それは律法の義の要求が、肉にしたがってではなく、霊にしたがって歩く私たちにおいて、満たされるためです」(ローマ8:4): **1.** 特に、キリストを私たちのパーソンとすることは、ミングリングされた霊に完全にしがたって存在することです。 **2.** 私たちは日常生活の中で、教えや、感覚や、観念や、環境にしたがって存在すべきではなく、ミングリングされた霊にしたがって存在し、宇宙的な一人の新しい人のためにキリストを私たちのパーソンとすべきです。 **金**

V. 私たちは、おおいが取り除かれ、照らされるなら、今日、主の回復において共に立ち上がって、一人の新しい人のためにキリストを私たちのパーソンとする必要があることを見ます:

エペソ4:11-13 そして彼ご自身は、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧する者また教える者として与えられました。それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり、ついに私たちすべては、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達するのです。

A. 賜物のある人たち、すなわち使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者は、このことを彼らの目標とすべきです。

B. 私たちは、あらゆる地方において聖徒たちを成就する必要があります。それは、彼らが一人の新しい人のために、キリストを彼らのパーソンとする状態へと至るためです。

C. もし主の回復の中のすべての聖徒がキリストを彼らのパーソンとするなら、私たちはみな自然に一人の新しい人となります。

D. 「究極的に、聖書は一人の新しい人としての召会に

ついて語っています。…新しい人の中には、そのパースンのほか何もありません。この段階はとても高いのでこれ以上高くなることはできず、とても厳密であるのでこれ以上厳密になることはできず、とても親密であるのでこれ以上親密になることはできません。すべての人は一人の新しい人です。この一人の新しい人にはただ一つのパーソンだけがあり、このパーソンは主イエスです」。

Crucial Point(1): 日常生活の80~90%は決定することであるので、決定することでキリストをパーソンとしなければ、キリストはあなたにとって実際ではない

OL1: 私たちが見る必要があるのは、召会が一人の新しい人であるということと、この新しい人の中には、私たちに余地はないということです。なぜなら、キリストがすべてであるからです。 **コロサイ 3:10** 新しい人を着たのです。その新しい人は、それを創造された方のかたちにしたがって全き知識へと至るように、新しくされつつあるのです。

11 その新しい人には、ギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開人、スクテヤ人、奴隷、自由人はあり得ません。キリストがすべてであり、すべての中におられるのです。

OL2: 私たちはみな次のように尋ねる必要があります、「だれが私のパーソンでしょうか？ 私でしょうか、それとも主イエスでしょうか？」。 **OL3:** 私たちは、私たちの以前のパーソン、すなわち「古い人」と「外なる人」を否まなければならず、また私たちの新しいパーソン、すなわち「内なる人」によって生きなければなりません。

OL4: クリスマンとしての私たちの標準は、正しいか間違っているか、善か悪かであるべきではなく、パーソンであるべきです。極めて重要な事は、私たちが「何を」行なっているかではなく、「だれが」それを行なっているかです。

私たちは自分の新しい誕生から一人の新しい人への発展を見る必要があります。一人の新しい人の中ではキリストがすべてであり、すべての中におられます。…救われる前、人は魂、パーソンであり、二つの器官があります。すなわち、外側の物質の世界と接触する外側の器官としての体と、神と霊的な世界と接触する内側の器官としての霊です。私たちが主イエスを信じ受け入れたとき、彼は命として私たちの霊の中へと入って来られました。…以前、私たちは魂の中に人の命を持っていただけでしたが、今や私たちの霊の中に神聖な命を持っています。…以前、[私たちの霊]は器官にすぎませんでした。なぜなら、それは命を持っていなかったからです。しかし今やそれは命のあるパーソンともなりました。

以前、私たちは魂の中の人でしたが、今や霊の中の人にならなければなりません。私たちの魂、すなわち以前のパーソンは、すでに「キリストと共に十字架につけられました」。私たちは、この事実を取って実行しなければなりません。私たちは、私たちの以前のパーソンが十字架につけられたことを認識しているのですから、もはやそのパーソンの中で、そのパーソンによって、そのパーソンと共に生きるべきではありません。私たちは、聖書が「古い人」、また「外なる人」と呼んでいる私たちの以前のパーソンを否まなければならず、また私たちの新しいパーソン、すなわち「内なる人」によって生きなければなりません。

私たちはこれを日常生活の中でどのように適用するのでしょうか？ 仮にある兄弟がデパートに行って物を買おうとするとします。彼はそれが主のみこころであるかどうかを調べるべきではありません。彼が調べなければならない最初の事は、彼の行くことが彼の魂から開始されているのか、それとも彼の霊から開始されているのかどうかということです。それが開始されているのは彼の以前のパーソン

によってでしょうか、それとも彼の現在のパーソンによってでしょうか、古い人によってでしょうか、それとも新しい人によってでしょうか、魂の人によってでしょうか、それとも内なる人によってでしょうか？

もし私たちがどのように死にもの狂いになってキリストとやりとりするか、どのように御言を祈り読みすることを通してキリストを常食とするか、どのように彼の御名を呼び求めることによって彼から飲むか、どのように日ごとに彼を吸い込むかを知るなら、霊の中で彼と一になります。これは私たちが日ごとに新しいパーソンの中で成長させます。

適用: 新人、青少年・大学生編

一人の新しい人の中で、キリストがすべての肢体であり、すべての肢体の中におられます。あなたはこのことを認識した上で、実行する必要があります。実行するために、あなたはキリストをパーソンとすることを学んでください。

(1) 毎朝復興: まずあなたは一日の開始である朝、キリストを命として享受する生活を建て上げてください。毎朝聖書を読み、祈り読みし、祈る時間を持ち、キリストを享受しなければ、次の段階であるキリストをパーソンとすることはできません。

(2) 日常生活でキリストをパーソンとすることを訓練する: 人の生活の80~90%は決定することです。あなたがキリストをパーソンとすることを訓練しなければ、生活にキリストがほとんどいないということになります。例えばあなたがブレンディングのために英語を勉強して他の国々からの兄弟姉妹と交わりを持つべきだと、集会中に照らされ、感覚を持ちました。しかし実際に海外からの英語を話す兄弟姉妹が来ると、「まだ十分勉強していないので、次の機会からチャレンジしよう。今回はやめておこう」と考え、決定しました。この考えと決定はあなた自身でしょうか、内住のキリストでしょうか。この場合、あなたは「私は臆病なので英語で話すことを後回しにしようと考えています。主イエスよ、英語を学ぶことは主と召会のためであり、集会の中であなたが私に照らして下さった感覚です。私は今、自分自身に問わなければなりません。後回しにすることは、誰を私のパーソンとしているのでしょうか？それは私でしょうか、それとも主イエスでしょうか？私はこのことで、実際にキリストをパーソンとすることを学ぶことができますように。アーメン！」と祈ってください。

Crucial Point(2): 新しい人の生活を結婚生活において現わし出し、妻は夫に服従し、夫は妻を愛する

OL1: 私たちは新しい人の一部分であるので、私たちの決定と私たちの生活は、私たちのものであってはならず、団体の新しい人の決定と生活であるべきです。これが究極の要求です。**OL2:** パウロは、キリストの命が彼の中に生きていたのではなく、パーソンであるキリストが彼の中に生きていたと言いました。**OL3:** 神のエコノミーとは、「私」がキリストの死の中で十字架につけられ、キリストが彼の復活において私の中で生きることです。

からだであっても新しい人であっても、働くことや行動することであっても、生活することや決定することであっても、すべては団体的であって、何も個人的ではありません。あなたは、今日のあなたの生活が新しい人の生活、団体の生活であり、あなたの決定は団体の決定であって、あなた個人の決定ではないことを見なければなりません。…あなたが新しい人の一部分であることを見るなら、パーソンとしてのあなた一人で決めたくないでしょう。あなたは新しい人の他のすべての部分と共に、キリストをあなたのパーソンとすることを願います。この時、あなたはあなたの人の生活に関して決定をしようとする場合、あなた自身を

パーソンとしないでください。そうではなく、あなたは新しい人の中でキリストをあなたのパーソンとし、決定をします。

キリストが規定を廃棄して、ユダヤ人と異邦人を一人の新しい人へと創造されたことは事実です。しかしこれが、私たちの日ごとの経験の中で実際的であるためには、キリストに私たちの心の中に、ご自身のホームを造っていただかなければなりません。あなたがまだ規定を持っているかどうかを告げる唯一の方法は、キリストがあなたの心の中に、ご自身のホームを造っておられるかどうかを調べることです。あなたは彼に、あなたの心の中に、ご自身のホームを造っていただいているのでしょうか？私たちが正直であるなら、私たちの大部分は、これを行なう機会をあまり彼に与えていないと言わなければならないでしょう。これは、私たちがまずキリストを顧慮するのではなく、自分の方法を顧慮するからです。

主が何かを語られる時、私たちはしばしば、「主よ、それはできません」と応答します。私たちは、「主よ、あなたが私にそのようなことをするように求められるとは思いません」と言うかもしれません。私たちの経験は、私たちが主に従って行くことを拒否する時はいつも、主の臨在と主の油塗りを失うと、証します。しかしながら、私たちが主に同意する時、彼の臨在を享受して、新鮮な方法で内側の油塗りを経験します。私たちは主にある喜びで、我を忘れさえするかもしれません。

多くの結婚した姉妹たちは、エペソ5章を読みたがりません。なぜならそれは、妻が自分自身の夫に服従することについて語っているからです。姉妹たちはこの章を読む時、暴露されて、服従していないことを認識します。ある人たちは、服従していないことで夫や環境を非難するでしょう。彼女たちは、主をさえ非難して、もし彼が違う夫を与えてくださったなら、必ず服従したと告げるでしょう。姉妹たち、自分の夫に服従しようとしなくて、キリストにあなたの心の中に、ご自身のホームを造っていただきなさい。あなたが彼をあなたのパーソンとして、彼にあなたの心の中に、ご自身のホームを造っていただくなら、あなたは必ず夫に服従します。…神は、私たちが宗教的な方法で自分の夫に服従しようとする、自分の妻を愛そうとすることを願われません。神の関心は、私たちがキリストを私たちのパーソンとして、すべての規定をわきに置くことです。

適用: 結婚生活編

エペソ4:22~24で、思いの霊の中で新しくされることによって、古い人を脱ぎ新しい人を着ることが述べられた後、4:25~5:21で生活の詳細が述べられ、5:22~6:9で具体的な人間関係について述べられています。具体的な人間関係についての最初の項目が結婚生活です。これは新しい人の召会生活で、夫と妻の人間関係が、極めて重要であることを示しています。

妻は自分自身の夫に服従すべきです。夫は自分自身の妻を愛すべきです。あなたはこれらのことを単なる倫理的な教えと考えてはいけません。そうではなくこれらのことを「新しい人を着る」と結び付けるべきです。倫理的に良い振る舞いをするために、「服従する」あるいは「愛する」のではなく、キリストを命としパーソンとした結果、あなたは「服従する」あるいは「愛する」ことができます。思いを倫理的振る舞いの改善に付けるのではなく、思いを霊に付け、キリストを命としパーソンとしてください。聖書は単にその文章だけで理解するのではなく、文脈で理解すべきです。

祈り: 「おお主イエスよ、新しい人の召会生活において、結婚生活は極めて重要です。結婚生活において、『服従すること』と『愛すること』を外側の振る舞いの改善としてとら

えるのではなく、思いを霊に付け、キリストを命としパースンとした表現であるととらえます。毎朝、御言葉を祈り読みし、主を享受します。日常生活で、特に結婚生活でキリストをパースンとすることを学ばせてください。アーメン！」

Crucial Point(3):新しい人の召会生活は、①愛の中でキリストと召会を保持し、②かしらであるキリストの中へと成長し込み、③キリストから出て来るものを持って機能することである

OL1:パウロはキリストと一であり、キリストに満ちており、キリストで浸透されていた人でした。彼は天然の命が砕かれ、さらには終結させられており、意志が柔らかく柔軟であり、感情が熱烈であるが制限されており、思いが思慮深く冷静であり、聖徒たちに対して霊が純粹で真実であり、彼らに益を得させました。

OL2:「究極的に、聖書は一人の新しい人としての召会について語っています。…新しい人の中には、そのパースンのほか何もありません。この段階はとても高いのでこれ以上高くなることはできず、とても厳密であるのでこれ以上厳密になることはできず、とても親密であるのでこれ以上親密になることはできません。すべての人は一人の新しい人です。この一人の新しい人にはただ一つのパースンだけがあり、このパースンは主イエスです」。エペソ 4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、わたしたちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

エペソ 4:15~16 は聖書の非常に短い箇所ですが、すべての秘訣がここに含まれています。全地のすべての聖徒が一人の新しい人になる秘訣は、まず愛の中で真実を固く保つことにかかっています。

次に、私たちはすべての事で、キリストの中へと成長し込まなければなりません。…15 節の「すべての事」は、大きな事でも小さな事でも、一つ一つの事を意味します。私たちはすべての事で、キリストの中へと成長し込まなければなりません。…あなたの人との対応、諸事の管理、人を扱う方法は、その霊の中になければなりません。あなたはすべての事で、その霊の中へと入る必要があります。

私たちは真実としてのキリストを固く保って、すべての事で、キリスト、すなわち命を与える霊の中へと成長し込む必要があります。これが私たちを新しい人とならせます。私たちがすべての事でキリストの中へと成長し込むなら、キリストの中で、このような種類の人や、あのような種類の人はいなくなるでしょう。

16 節は続けて、からだ全体は彼からであり、また彼から出て来る、すなわち彼から出て来るものであると言っています。あなたが決して彼の中へと成長し込んだことがないなら、彼から出て来ることは決してできなかったでしょう。…私たちがこのようにキリストの中へと成長し込むとき、自然にキリストをパースンとならせます。パースンとしてのキリストは個人的でも、地方的でもなく、宇宙的で、…六大陸のすべての兄弟姉妹がキリストをパースンとするなら、主の回復の地上におけるすべての兄弟姉妹は、自然に一人の新しい人となります。

適用:青年在職・大学院生編

あなたは祝福されたビジネス・ライフを持つために、以下の3つの事に注意を払ってください。

(1)真実を固く保つ:宇宙において真実で実際であるものはキリストとキリストのからだである召会だけです。あなたは愛の中でキリストと召会生活を固く保持する必要があります。

仕事や研究が忙しくて集会に参加できないのであれば、それは仕事や研究を固く保持しているだけで、真実を固く保持していることになりません。仕事や研究が忙しくても、真実を固く保持してください。そうすればあなたは祝福されます。

(2)すべての事がかしらであるキリストの中へと成長し込む(grow up into Christ):すべての事で、特に決定においてキリストを命としパースンとすることで、かしらであるキリストの中へと成長し込むことができます。例えばプロジェクトが困難に出くわした時、あなたは、**a)**プロジェクトを中止する、**b)**プロジェクトを遂行するための戦略を変更する、**c)**プロジェクト・メンバーを変更する、のどれかを選び、決定しなければなりません。この時あなたは情報を収集した後、過去の前例に従うのではなく、キリストをパースンとして取ることを訓練するために、内住のキリストに開き、次のように祈ってください、「おお主イエスよ、私たちのプロジェクトは困難な局面にきています。このプロジェクトは中止すべきなのか、戦略を変更すべきなのか、プロジェクト・メンバーを変更すべきなのかを決定しなければなりません。決定しないまま放っておくと状況は悪化します。主よ、あなたに開き、あなたの御名を呼び求めます。私はどれだけ情報を収集しても、すべての事を理解し洞察することはできません。あなたをパースンとし、決定することができますように」。

(3)かしらであるキリストから出て来て(out from Christ)機能する:キリストの中へと成長し込んで初めて、キリストで構成され、キリストから出て機能することができます。キリストから出て来ていない奉仕は、建造に役に立ちません。ビジネス・ライフや研究生生活の中のすべての事で、キリストの中へと成長し込むことは、あなたが召会生活の中で建造するための機能を持たせませす。

(4)まとめ:あなたの召会生活はあなたのビジネス・ライフを祝福し、ビジネス・ライフにおけるキリストをパースンとする経験は、召会建造のための奉仕につながります。

人生の奥義(2) 神から与えられる恵み、祝福③:『義』

A.「神の王国は食べ飲みすることではなく、義と平和である」—義とは、正しく正当であることです。神の王国の中に生きる人は、人に対して、物事に対して、神に対して、正しく正当でなければならず、間違った、不当な、曲がった、傾いた、偏ったことがあってはなりません。…私たちが人に対して、物事に対して、神に対して、義であり、正しく、正当であるなら、人と、また神と平和な関係を持ちます(ローマ14:17 FN2)。

B.「私たちはみな汚れた者のようになり、私たちの義はみな不潔な衣のようです」(イザヤ64:6a)。

C.「神の義は福音の中で啓示され、信仰から信仰へと至らせるからです」—神の福音の中で啓示されるのは、神の義であって、私たちの義ではありません。ですから、福音は、すべて信じる者を救いに至らせる神の力です(ローマ1:17 FN1)。

D.「キリストは、信じるすべての者を義に至らせる…」—彼を信じる者はすべて、神の義、すなわちキリストご自身を受けるのです(ローマ10:4 FN1)。

E.「神は罪を知らなかった方を、私たちに代わって罪とされました。それは、私たちが彼の中で神の義となるためです」—一人は罪人であるだけでなく、罪そのものでさえありましたが、キリストの贖いを通して、神の義とされ、義なる神に和解させられました。そして、新創造とされて、神の永遠の目的のために、彼に生きるものとされます」(Ⅱコリント5:21 FN3)。